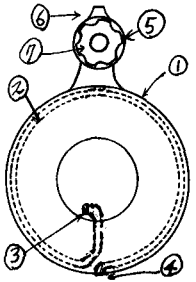
E—23

安全湯わかし（やかん）の開発（第5報）

長崎大教育　重永幸男



第1図．本器の上面図

第2図．液体注入口兼取り出し口

目的：前回報告（日本家政学会第26回総会研究発表要旨集152頁参照）に同じ。本報告はとくに蒸気噴出口④の開口位置についての検討と液体注入口兼取り出し口⑤の改良に関するものである。

構造：第1図および第2図に示すように容器①の内部に曲げ管②を取りつけ，その一端③が容器①内の最高所に位置するように配設し蒸気取り入れ口とし，その他端④は容器①外，後部に開口させ蒸気噴出口とする（なお蒸気噴出口を容器前方に開口させた態様は第1報に示す）。この場合，内管長がもとも短かく製造出来，合理的であるが，蒸気が手前に出る欠点がある。又液体注入口兼取り出し口⑤の前方に嘴状突起⑥を設け，内容液を取り出し易く改良する。さらに密栓⑦は内栓式とし（第1～4報のものは全て外栓式）下方から加熱した際の温度上昇を緩和する。栓⑦をねじ込むと，その下部にはめ込まれたパッキン（耐熱性ゴム）⑧の下部につけたテーパーの機能で止水する。

蒸気噴出口の位置は，容器上方，下方，前方，後方，左右側方何れの方向にも配設可能であるが，上方は取手を加熱させ（そのため取手は左右に取りつけるとよい——第4報参照），後方は使用者側に蒸気を噴出させるので安全性が低い。また左右側方や下方は特殊な条件以外は一般的でない。